

今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について

（諮問）

趣旨：

我が国では、昭和三十年代後半からの高度経済成長期に集中的に整備された社会資本が今後急速に老朽化することが見込まれ、厳しい財政制約の中、今後も不足する社会基盤の整備を着実に進めるとともに、既存の社会基盤を効率的に活用し適切かつ確実に維持管理・更新を進めることにより、国民の貴重な財産である社会資本を次世代に確実に引き継ぐことが喫緊の課題となっている。

また、公共投資の全体像について一層の説明責任を果たすべきことや、既存ストックの維持管理・更新について民間資金の一層の活用を図るとともに、重点化や長寿命化を図りつつ、見通しを立てた計画的な更新を行うべきこと等が指摘されている。

こうしたことを背景に、社会資本の維持管理・更新を進めるためには、国直轄分はもとより、社会資本の大部分を占める地方公共団体管理分も含めた社会資本について、実態を把握した上で維持管理・更新費用の将来推計を実施することが必要である。また、社会資本の長寿命化等による維持管理・更新のあり方及び技術開発の方向性を検討しトータルコストの縮減を目指すことが重要である。さらに、少子高齢化、人口減少をはじめとする社会構造の変化に対応した社会資本の維持管理・更新のあり方を検討することが必要である。

以上のことから、今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について諮問するものである。